

国語 第4学年 短歌・俳句に親しもう（二）

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：古典や文語調の文章を声に出し、現代の話し方と異なる響きやリズムを味わう。現代語訳の暗記や作品名当てに偏らない。C(1)力の学習として、区切りや響かせたい言葉のメモと、その読み方にした理由。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、文章から想像した様子や感じたことを言葉を根拠にまとめ、友達と伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)力の姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：区切りや響かせたい言葉のメモと、その読み方にした理由を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)力に関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：音数を数えるだけで情景を考えない、意味不明のまま音だけをまねる。これに対して、教師が教科書の実際の文章を範読し、意味を確かめる必要のある語だけを補う。配布物には本文を転載せず、児童は自分の教科書で区切りの候補を確かめる。〔知識及び技能〕(3)アとC(1)力を切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「どこで区切り、どの言葉を響かせると、様子が伝わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)力に関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：区切りや響かせたい言葉のメモと、その読み方にした理由は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)力の評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)力で目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：音数を数えるだけで情景を考えない、意味不明のまま音だけをまねる。教師が教科書の実際の文章を範読し、意味を確かめる必要のある語だけを補う。配布物には本文を転載せず、児童は自分の教科書で区切りの候補を確かめる。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「どこで区切り、どの言葉を響かせると、様子が伝わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)力に関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

